



第68期

第2四半期決算のご報告

2019年8月21日～2020年2月20日



本社・工場



 福島印刷株式会社

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地
TEL (076) 267-5111(代) FAX (076) 267-8065
URL <http://www.fuku.co.jp/>

福島印刷株式会社

証券コード 7870

株主のみなさまへ



代表取締役社長 ^{しもはた} 下島 ^{まなぶ} 学

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに、第68期第2四半期累計期間(2019年8月21日から2020年2月20日まで)の営業の概況についてご報告申し上げます。

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、国際的な貿易摩擦や消費税率引き上げの影響を受け一部景況指数に停滞感が出てきたところ、新型コロナウイルス感染症の拡大により国内景

気の先行きへの不透明感が増している状況にあります。

印刷業界におきましては、Web化等による印刷需要の減少、競争激化による受注価格下落の影響を受け、引き続き厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社は引き続き最新鋭の印刷機等設備導入により生産体制の強化を図るとともに、独自技術によるDP(データプリント)を中心としたサービスの製品開発やサービス

の充実、大都市圏での販売力強化とともに、販売マネジメントと顧客管理技術の強化による創注や、原価構造改善に積極的に取り組んでまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は37億52百万円(前年同四半期比6.7%増)となりました。利益面については、外注加工費の増加などにより、営業利益は21百万円(前年同四半期比28.0%減)、経常利益は25百万円(前年同四半期比27.5%減)、四半期純利益は12百万円(前年同四半期比46.1%減)となりました。

今後の見通しにつきましては、わが国経済は中国経済の減速に加え、新型コロナウイルス感染症の長期化など、状況いかににより金融市場や企業業績に対する影響が懸念され、景気の先行きは予断を許しません。当社といたしましては、今後とも最新鋭の印刷・加工設備の導入や、「さいたまサテライト」の有効活用による生産体制の増強、品質保証と情報セキュリティ体制の継

続強化を図るとともに、独自技術によるDP(データプリント)を中心としたサービスを強化し、さらなる差別化を推進してまいります。営業面におきましては引き続き大都市圏での販売力強化とともに、「ならでは商品」に注力した提案活動の強化により、業績の向上を図る所存であります。

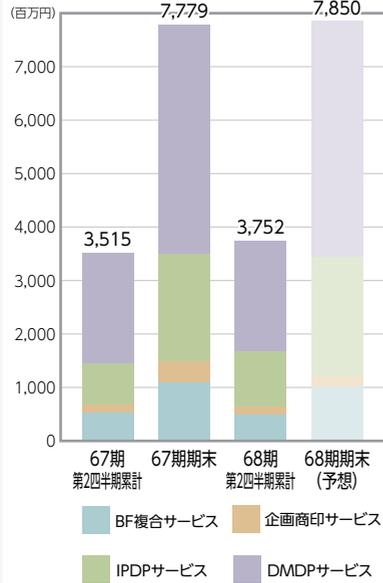
なお、通期の業績予想につきましては、売上高78億50百万円、営業利益2億23百万円、経常利益2億36百万円、当期純利益1億64百万円と見込んでおります。

また、中間配当につきましては、2020年3月26日開催の取締役会において、1株当たり6円と決議しており、期末配当とあわせて年12円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

製品分野別売上高

製品分野別売上高



福島印刷の

4分野による複合サービスの実現

当社は情報発信のパートナーとして、「コミュニケーション エイジェント」という新しいビジネスモデルを目指しています。お客様の情報発信は多様で、その手段、ツールにも様々な選択肢があります。そこからお客様視点に立ち多様な可能性を求めて、4つのサービス形態を整備拡張しています。

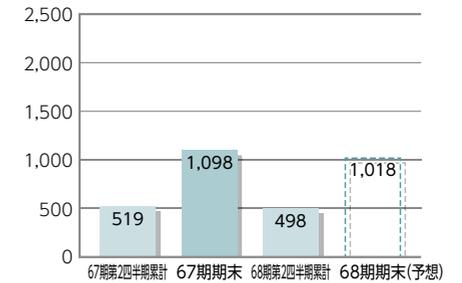
BF(ビジネスフォーム)複合サービス

- コンピュータ用帳票
- 一般帳票
- シール・ラベル など



BF複合サービスは、コンピュータ用帳票に代表される機械加工を伴った帳票印刷分野です。Web化に伴うペーパーレス化が進み、市場全体での需要量の減少傾向が続いていることから、売上高は前年同四半期を21百万円(4.1%)下回る4億98百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



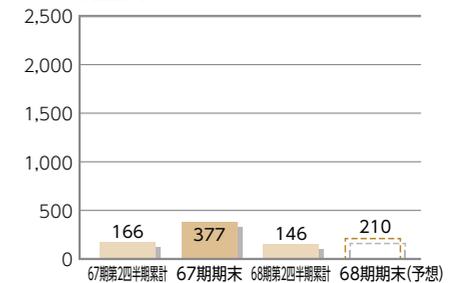
企画商印サービス

- 広告宣伝用印刷
- マニュアル印刷 など



企画商印サービスは、パンフレットやカタログに代表されるビジュアル印刷物の分野です。企業の経費抑制が継続するなか、同業者間での価格競争が激しさを増すなど厳しい受注環境が続いていることから、売上高は前年同四半期を19百万円(11.7%)下回る1億46百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



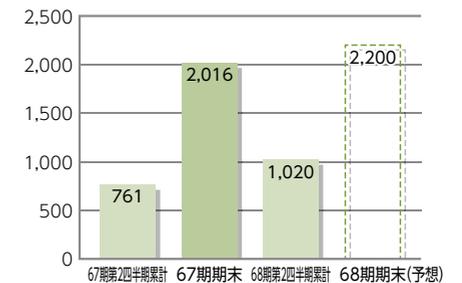
IPDP(インフォメーションプロセッシング データプリント)サービス

- 請求書等発行処理受託
- 各種行政サービス印字処理
- 各種通知案内印字処理受託 など



IPDPサービスは、企業が定期的に発送する請求書や官公庁が住民に発送する各種通知書など、事務通知書類のデータプリントから、封入封緘などの後処理、メール発送までを代行するサービス分野です。通知業務がWeb化する傾向の中にあっても必要な紙業務創出が順調に推移し、売上高は前年同四半期を259百万円(34.1%)上回る10億20百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



DMDP(ダイレクトメールデータプリント)サービス

- ダイレクトメール
- ダイレクトメール処理受託
- データベースオンデマンド印刷 など



DMDPサービスは、お客様の顧客データベースが進化するなかで、有力な販促物を提供するサービス分野として発展しました。オフセット印刷仕様の減少が大きいながらも、デジタル印刷技術で企画の高度化に対応できたことにより、売上高は前年同四半期を18百万円(0.9%)上回る20億86百万円となりました。

売上高 (単位: 百万円)



当社「ならでは」の取り組み

IT技術力強化の取り組み

お客様へより良いサービスを提供するための標準化や生産性向上を目指して、デジタル技術を生産管理に活用した『SPシステム』（サービスプロセス管理システム）の構築を進めてきました。

■デジタルトランスフォーメーションへの取り組み

経済産業省が発行したDXレポートでは「複雑化・老朽化・ブラックボックス化した既存システムが残存した場合に想定される国際競争への遅れや経済の停滞などの問題を解決できない場合、2025年以降に日本全体で年間12兆円もの経済損失が生じるおそれがある」という「2025年の崖」問題を指摘しています。従来の製造業としての生産管理システムから、DPメーリングのサービスをご提供するという業態転換のなかで、当社も「2025年の崖」問題に立ち向かうべく、SPシステム開発を進めてきました。SPシステムは、ITサービスの開発運用更新といったサービスプロセス管理をベースとした、業務改革と一体となったシステム開発として進めています。今回の一部本番稼働を起点として、サービスレベルの安定革新に繋がる業務基盤改革と並行してさらに推進してまいります。

■プロセスアプローチの実現

当社は、製品及びサービスの提供を確実に実施するために、提案からサービスの実現までのプロセスを明確にする「プロセスアプローチ」を基本としています。SPシステムは、製品・サービスの標準仕様管理、標準タスク管理、個別要件・個別仕様管理、変更要求履歴管理といったサービスプロセス全ての一元的な生産管理を主体に構成しています。これにより、メーリング業態に対応した次世代のプロセスアプローチが実現できました。また複数の管理機能を集約することで、大幅な生産性の向上を目指します。

■Transformative nature性の実現

SPシステムはkintoneをベースに構築されています。kintoneは、データベースツールをノンプログラミングで作成できるクラウドサービスで、データの入力・集計・共有・コミュニケーションの全てを一元的行うことができます。システムリリース後も、今後の業態転換や市場の変化に合わせた業務スキームを担当者自らが考え、新たな運用を提案することが活発になり、当社全社方針に掲げた『Transformative nature性』（=自ら変化を提案する）の実現に貢献し、社員の成長を支援するシステムとしても期待しています。

※kintoneは、サイボウズ株式会社が提供しているwebデータベース型の業務アプリ構築クラウドサービスです。なお、お客様からお預かりする個人情報の処理環境については、外部からの不正アクセス防止のためクラウドサービスを利用しておりません。



人材育成の取り組み

データプリントサービスの成長を背景に、ITスキル強化を目指し2012年4月より開始した教育投資制度は、ベース資格と定めた「ITパスポート試験」の社員合格者は190名を超え、さらにITパスポートを除く各種情報処理試験では、高度情報処理技術者試験合格者41名や、組織における情報セキュリティ確保の基本的なスキルを認定する「情報セキュリティマネジメント試験」の社員合格者が50名を超えるなど、延べ約150名の合格者を輩出しております(2020年2月時点)。

■高度情報処理技術者試験 合格者の声



システムアーキテクト試験 合格
処理環境設計開発課 野村 哲也

—なぜこの試験を選びましたか？

システムアーキテクト試験は、業務ニーズに適した情報システムのグランドデザインを設計し完成に導く上級エンジニアを目指す人を対象としています。私が所属する部署では、利用部門の要望に合わせたツールを設計・開発する役目を担っています。この試験で期待される技術水準は、ちょうどこの部署で求められていることと一致していたため、チャレンジしようと思いました。

—学習したことを、今後どのように活用したいですか？

部署内ではツールに対する設計・開発の品質を高めるため、プロセスの見直しやドキュメント整理といった取り組みを行っていますが、システムアーキテクトの学習のなかでも、その取り組みで出てきた内容や考え方があり、改めて部署でやっていた取り組みの重要性を感じました。学習で得た知識をまずは部署内にフィードバックして、利用部門の要求の本質を理解したより良い提案ができる部署にして行きたいと思っています。

■『運協アワード』開催

2019年9月、当社管理職およびチーフ職を対象に『運協アワード2019』を開催いたしました。これは、1年間での優れたプロジェクトを選出し、代表者が取り組み内容をプレゼンテーションした後に参加者による投票と顕彰を行うというものです。今年度のアワードでは以下のテーマが最優秀賞を受賞しました。

取組最優秀賞

「枚葉課 職場運営取組」製造部 神田 洋志

LA(ラーニングアニマル)最優秀賞

「分かりやすさの再設計でUCDA認証取得」開発制作部 大路 靖司



業態転換のなかで進むスキル・業務の多様化やダイバーシティを背景に、社員間の部門をまたいだ相互理解を深める場を作りたいという思いから開催に至りました。営業最前線の取り組みや、ものづくりにおける現場力の高さを共有する貴重な時間となりました。

財務諸表

■ 四半期貸借対照表

(2020年2月20日現在)

科目	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
【資産の部】		
流動資産	2,372,666	2,528,267
現金及び預金	551,686	599,346
受取手形及び売掛金	1,085,609	1,225,412
電子記録債権	330,329	384,406
製品	104,723	83,399
仕掛品	166,389	109,107
原材料及び貯蔵品	85,730	83,789
その他	48,710	43,388
貸倒引当金	△512	△582
固定資産	4,690,198	4,599,647
有形固定資産	4,251,992	4,160,322
建物(純額)	1,182,485	1,171,311
機械及び装置(純額)	1,425,680	1,536,304
土地	965,106	965,106
リース資産(純額)	529,651	328,045
その他(純額)	149,067	159,554
無形固定資産	142,116	144,071
投資その他の資産	296,089	295,252
資産合計	7,062,865	7,127,915

単位:千円

科目	当第2四半期 会計期間末	前事業年度末
【負債の部】		
流動負債	1,393,775	1,630,047
買掛金	313,085	348,340
短期借入金	410,040	510,040
リース債務	201,579	145,882
未払法人税等	17,066	103,290
賞与引当金	60,816	99,117
役員賞与引当金	5,496	13,200
その他	385,691	410,177
固定負債	896,653	706,907
長期借入金	244,890	254,910
リース債務	389,047	223,245
退職給付引当金	208,135	174,172
資産除去債務	13,895	13,895
その他	40,685	40,685
負債合計	2,290,428	2,336,955
【純資産の部】		
株主資本	4,729,305	4,758,373
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
利益剰余金	3,984,218	4,013,286
自己株式	△113	△113
評価・換算差額等	43,131	32,586
その他有価証券評価差額金	43,131	32,586
純資産合計	4,772,436	4,790,959
負債純資産合計	7,062,865	7,127,915

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期損益計算書

(2019年8月21日から2020年2月20日まで)

単位:千円

科目	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間
売上高	3,752,878	3,515,634
売上原価	3,037,570	2,776,794
売上総利益	715,308	738,840
販売費及び一般管理費	694,208	709,522
営業利益	21,099	29,318
営業外収益	9,909	11,677
受取利息	8	13
受取配当金	1,181	1,209
作業くず売却益	5,717	6,965
その他	3,002	3,488
営業外費用	5,456	5,751
支払利息	5,448	5,751
その他	8	—
経常利益	25,552	35,244
特別利益	—	199
固定資産売却益	—	199
特別損失	82	2,020
固定資産除却損	82	2,020
税引前四半期純利益	25,470	33,423
法人税、住民税及び事業税	1,200	1,000
法人税等調整額	11,341	8,451
四半期純利益	12,929	23,972

(記載金額は千円未満切捨)

■ 四半期キャッシュ・フロー計算書

(2019年8月21日から2020年2月20日まで)

単位:千円

科目	当第2四半期 累計期間	前第2四半期 累計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	367,131	217,334
投資活動によるキャッシュ・フロー	△141,482	△162,999
財務活動によるキャッシュ・フロー	△237,908	△38,205
現金及び現金同等物の増減額	△12,260	16,129
現金及び現金同等物の期首残高	541,746	562,444
現金及び現金同等物の 四半期末残高	529,486	578,573

(記載金額は千円未満切捨)

会社情報



(上段、左より) 堺、松井、平野、中村、竹村
(下段、左より) 下島、福島、松谷

役員 (2020年4月21日現在)

代表取締役会長	福島理夫	取締役	堺嘉弘
代表取締役社長	下島学	常勤監査役	平野信昭
常務取締役	松谷裕	監査役	中村俊介
取締役	松井睦	監査役	竹村裕樹

会社の概要

商号	福島印刷株式会社
英文名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111(代)
設立	昭和27年9月10日
資本金	4億6,000万円
従業員数	444名
事業所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都千代田区鍛冶町1丁目5番7号 江原ビルディング9F 西日本営業部 大阪市淀川区宮原5丁目1番28号 新大阪八千代ビル別館8F 富山営業所 富山市上袋708番地1 福井営業所 福井市和田東2丁目1718番地 さいたまサテライト さいたま市桜区町谷1-4-1 株式会社廣済堂さいたま工場内

株式についてのご案内

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで
 定時株主総会 11月
 基準日 定時株主総会 8月20日
 期末配当 8月20日
 中間配当 2月20日
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 三井住友信託銀行株式会社
 特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
 口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株
 上場証券取引所 名古屋証券取引所
 公告方法 電子公告により当社ホームページ (<http://www.fuku.co.jp/>) に掲載いたします。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

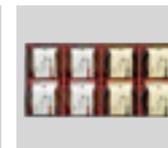
2019年優待品



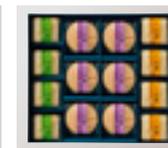
金沢五郎島金時



四十萬谷 特選詰合せ



烏骨鶏 煮ごり茶漬け



不室屋 おもてなし



ざぶん賞へ寄付